

## 2019年東京都食中毒発生状況（速報値）2019年12月31日現在

2019年12月末までの都内の食中毒の発生状況が、東京都から公表されました。

速報値ですから、確定値の発表までに値の変更が若干あると思います。

しかし、2019年一年間の東京都の食中毒発生状況の総括となります。

2019年の結果は、2018年（平成30年）の結果と比較すると、発生件数も患者数も大幅な減少となりました。

最近10年間の平均に比べても発生件数は84%程度、患者数は43%程度となっています。

特にここ数年続いているノロウイルス食中毒の減少傾向が今年はより顕著に現れています。

また、アニサキス食中毒も昨年同期と比較すると半分程度となっています。

### 1 事件数（12月分までの累計）

113件（昨年同期185、最近10年間の同時期134件）

### 2 患者数（12月分までの累計）

821名（昨年同期1,917名、最近10年間の同時期1,900名）

### 3 死者数（12月分までの累計）

0名（昨年同期 0名）

### 4 月別食中毒発生状況

#### （1）2019年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	9	11	16	10	7	10	11	7	6	12	9	5	113
患者数 (人)	81	34	154	90	20	32	28	113	97	77	51	44	821

#### （2）2018年（平成30年）月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	9	11	13	23	22	15	9	19	31	11	7	15	185
患者数 (人)	303	133	130	202	211	87	46	265	188	50	35	268	1,917

#### （3）最近10年間の月別発生状況（平成30年までの平均値）（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数	14	9	10	10	10	12	10	11	13	10	8	15	134
患者数	331	238	128	201	99	134	61	120	127	90	96	276	1,900

## 5 病因物質別発生件数

12月の食中毒発生件数は5件で、ノロウイルス食中毒が2件とアニサキス食中毒が3件でした。  
年間を通して発生しているカンピロバクター食中毒の報告はありませんでした。

		2019年				平成30年(2018年)			
		12/1~12/31		累計(12/31まで)		12/1~12/31		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
ウイルス	ノロウイルス	2	41	13	238	5	231	28	920
	サボウイルス							1	81
	A群ロタウイルス							1	8
細菌	カンピロバクター			35	180	6	33	41	235
	黄色ブドウ球菌			1	4			1	7
	腸炎ピブリオ							13	120
	ウエルシュ菌			3	196			4	108
	セレウス菌			1	20				
	サルモネラ			2	18			2	11
	腸管出血性大腸菌			4	18			6	270
	腸管出血性大腸菌/カンピロバクター			1	2			1	4
寄生虫	サルモネラ及びカンピロバクター			1	7			1	8
	アニサキス	3	3	47	49	4	4	77	78
	シュドテラノーバ			1	1			1	1
化学物質	グドア・セブテンブクタータ							1	7
	ヒスタミン			1	7			1	6
自然毒	塩素							2	3
	植物性自然毒								
	動物性自然毒							1	1
	不明			3	81			3	49
	合計	5	44	113	821	15	268	185	1,917

## 6 原因施設別発生件数

12月の食中毒は、一般飲食店でノロウイルス食中毒2件、アニサキス食中毒1件が発生し、すし屋でアニサキス食中毒が1件、施設不明でアニサキス食中毒1件が発生しました。

		2019年				平成30年(2018年)			
		12/1~12/31		累計(12/31まで)		12/1~12/31		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
飲食店営業	一般	3	42	84	487	10	84	105	1050
	すし	1	1	7	8			26	135
	仕出し			1	93			3	349
	弁当							1	1
	旅館・ホテル			1	1	1	38	1	38
集団給食(要許可)				2	135			3	67
集団給食(届出)								2	75
魚介類販売業				6	6			18	19
菓子製造業								1	7
飲食店(一般)、菓子製造業				1	39				
家庭				2	2	1	1	6	6
その他				2	43	1	143	2	153
不明		1	1	7	7	2	2	17	17
合計		5	44	113	821	15	268	185	1,917

## 7 食中毒のことや発生状況についてもっと知りたい方は

(1) たべもの安全情報館 知って安心～トピックス～(東京都福祉保健局)

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin\\_topics.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin_topics.html)

(2) 東京都の食中毒発生状況

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/tyudoku/index.html>

(3) 全国の食中毒発生状況(厚労省)

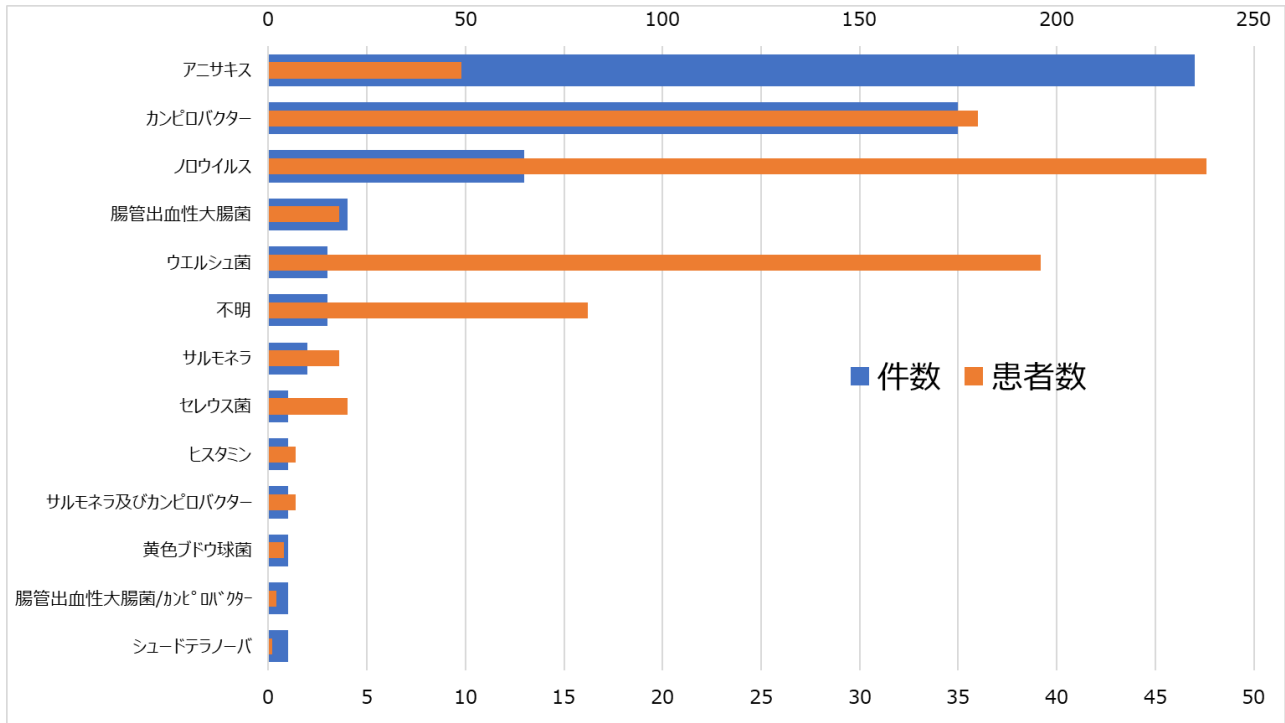
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html)

## 8 元食品衛生監視員のつづやき

速報値ですが、2019年の東京都の食中毒発生状況が発表されました。

昨2018年と比較して、目立った点は以下のとおりです。

- ① 発生件数、患者数ともに大幅に減少しました。特に患者数は半減しました。
- ② ノロウイルス食中毒の減少傾向が顕著となっています。
- ③ アニサキス食中毒も2018年の77件から47件と39%も減少しました。
- ④ これに対してカンピロバクター食中毒は目立った減少はありませんでした。



【図1 2019年の都内で起きた原因物質別食中毒の発生件数と患者数】

次に、原因物質別の発生率を2018年と2019年で比較したものが図2のグラフです。

これを見ると、アニサキス食中毒は発生率の変化はありませんでした。カンピロバクター食中毒とノロウイルス食中毒は減少しています。

食中毒統計は、1月から12月までの暦年で出されています。

ノロウイルス食中毒の多発時期は11月から翌年の4月頃ですので、こうした原因物質別の発生状況の比較をするには、4月から翌年3月までの年度集計をするほうがより正確な判断ができます。

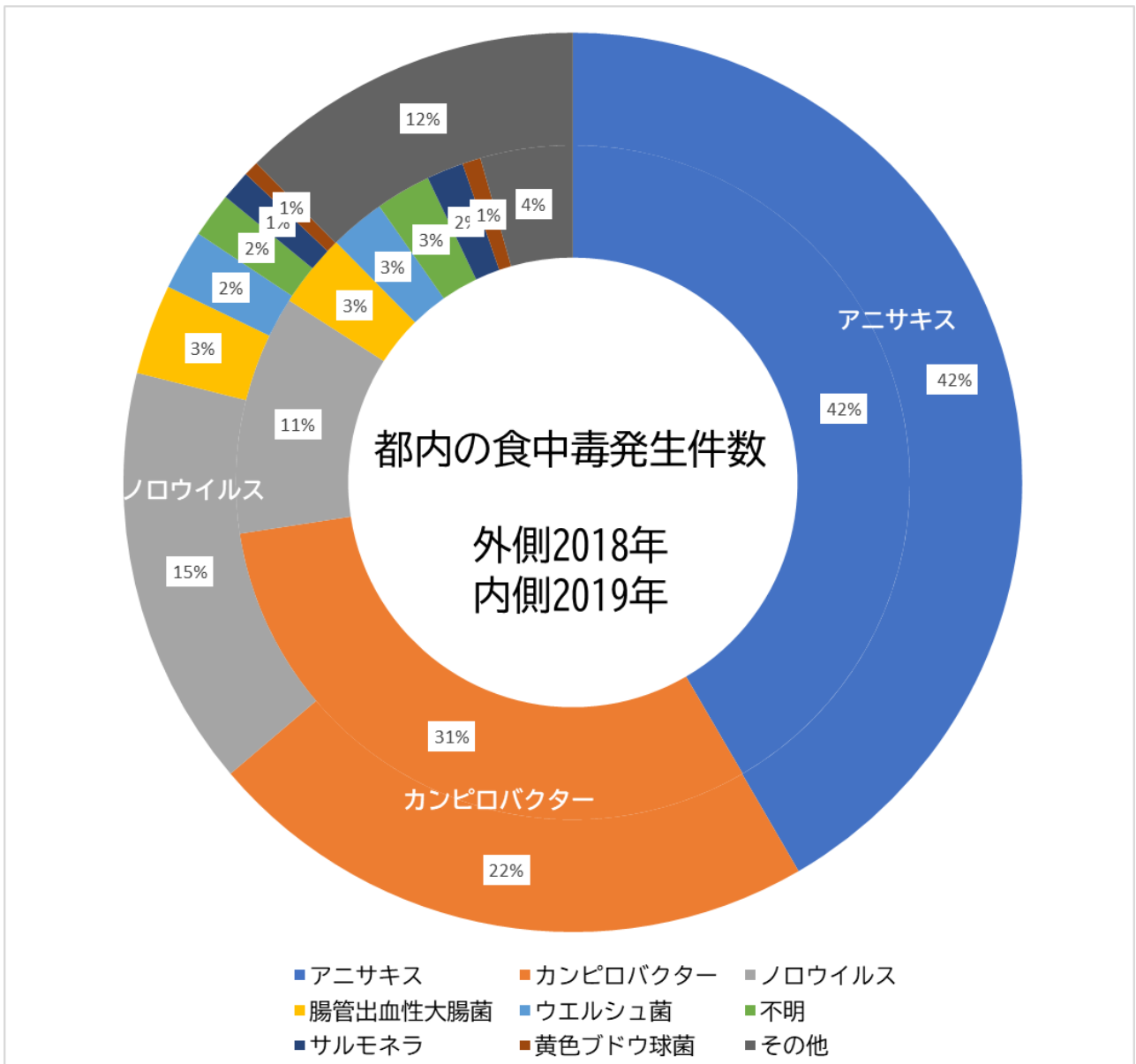
2019年のノロウイルス食中毒の数値は、2シーズン分の一部の数値を合計したものとなっています。

ノロウイルス食中毒が食中毒の原因として報告されていなかった時代のやり方を継承していますが、ノロウイルス食中毒が減少傾向とは言えやはり患者数が一番多いことを考えると、食中毒統計の方法の見直しも必要ではないかと考えます。

2019年の年末にはノロウイルス食中毒が非常に少ない状況でしたが、2020年になってからノロウイルス食中毒の発生情報が目立ってきました。

今後の発生状況に注目です。

また、ノロウイルス食中毒の減少の原因についても報告が待たれます。



【図2 原因物質別発生率の2018年と2019年の比較】